

第65回車座集会意見交換内容（多摩区）

- 1 開催日時 令和6年2月18日（日） 午前10時から正午まで
- 2 場 所 生田出張所 2階大会議室
- 3 参加者等 参加者45名、傍聴者等約10名 合計55名

<開会>

司会：定刻となりましたので、ただいまから第65回車座集会を始めさせていただきます。

私は、本日の司会を務めます、多摩区役所企画課長の相原と申します。よろしくお願いいたします。
今回は、「地域でのつながりのつくりかた」をテーマに、地域での活動を今は行っていないものの、実は興味がある皆様、日頃から実際に地域で何かしらの活動に取り組み、または参加されている皆様に御参加をいただき、ワークショップ形式で意見交換などを行ってまいります。

初めに、行政からの出席者を紹介させていただきます。

福田紀彦川崎市長でございます。

市長：おはようございます。よろしくお願いいたします。

司会：藤井智弘多摩区長でございます。

区長：よろしくお願いいたします。

司会：それでは、福田市長から御挨拶を申し上げます。市長、よろしくお願いいたします。

<市長挨拶>

市長：改めまして、皆さん、おはようございます。

第65回目となります車座集会にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

アイスブレイクがかなり盛り上がったのか、日曜日の朝の10時に、大分皆さん、テンションが高いなと思って、本当にうれしく思っています。

これまでいろいろなテーマについて車座集会でやってきましたけれど、今日はつながりづくりということです。

私、川崎市を最幸のまちにと、最も幸せなまちにという造語ですが、それを目指そうと言っていますけれど、幸せの定義は行政が何かをつくるものではありませんが、1人1人の市民の皆さんが、ああ、このまちに暮らしていて本当によかった、幸せだと思えるようなまちというのはどういうことかという、やっぱりつながりのあることだと思っていますし、実は皆さん、御案内の方も結構多いかもしれませんが、世界で最も長く続いている調査でハーバード大学の調査があって、どういう人が幸せを感じているかというもので、1つはものすごく学歴のある方と、そして、非常に貧しいところの地区で生まれた方というのを90年間にわたって調査しているんですけども、結果、お金だとか肩書だとかというのは、幸せの要素としてほとんど関係ないと。

最も関係しているのというのは、身近なところにつながりがすごくあるということらしいです。それはもう、私たちは実感として多分あるんじゃないかと思います。

さっき、実はここに来る前に、僕も仕事が終わったら、間違いなく地域の中で孤立するんじゃないか、予備軍ではないかということをお話と一緒に話していたんです。その前に、何とか僕も地域デビューの

準備をしなくちゃいけないなと思っているのですが、今日、これだけ集まっている中で、意外と若い人が多いということにびっくりしております。多分、いろいろな活動をしている人、あるいはこれから活動したい人たちがいるので、さまざまな発想だとか、つながりというのは、ここからも生まれちゃうんじゃないかなというふうなことを期待しております。

今日はワークショップで、その後、みんなでディスカッションしていこうということですので、昼までですけれども、どうぞよろしく願いいたします。

司会：福田市長、ありがとうございました。

<参加者紹介>

司会：次に、参加者の皆様でございます。

本日は、大学生、現役の会社員、地域で様々な活動を行われている方など、計45名の皆様に参加をいただいております。お手元のプロフィールシート、左端の参加者番号1番から46番まで、AグループからHグループまでの8グループに分かれて御参加をいただいております。

御参加の皆様につきましては、事前に各テーブル内での自己紹介をお済ませいただいておりますので、全体での御紹介については、各自御記入いただきましたプロフィールシートを共有させていただくとともに、傍聴の皆様には、座席表をお配りし、御紹介に代えさせていただきます。

<進行の流れの説明>

司会：それでは、本日の進行を御説明いたします。資料の2ページをお開きください。

この後、現状・課題の説明としまして、近所に手助けを頼める人がいないといった、地域でのつながりの現状について説明いたします。

その上で、本日のテーマに関わる事例として、会社を退職後、地域での活動を始められました齋藤様から、地域活動の魅力などについて御発表をいただきます。

この説明・事例発表で、皆様と共通認識を持った上で、次のワークショップに入ってまいります。ワークショップは、大きく2つの内容で行ってまいります。

まず、グループ別として、8グループのそれぞれで、地域での活動に関わるきっかけや、興味があることなどについてアイデアを出し合いながら、具体的な取組を練り上げるプランニングゲームを行ってまいります。

それぞれのプランが形になってきたところで、全体に移り、各グループで話し合ったプランを会場全体で共有し、市長と参加者の皆様とで意見を出し合い、より参加してみたいと思える取組にブラッシュアップするとともに、車座集会後の実践に向けた足がかりも探ってまいりたいと思います。

それでは、説明に移らせていただきます。

<テーマに係る現状等の説明>

青柳係長：多摩区役所企画課の青柳と申します。

私から、地域でのつながりの現状、課題などについて御説明をいたします。なお、参加者の皆様におかれましては、事前の御案内と重なるものとなりますが、改めて御確認ください。

多摩区区民意識アンケートによると、困ったとき、近所にちょっとした手助けを頼める人がいない方は半数を超え、地域のボランティア活動、サークル活動などを行っていない方は70%以上です。コロナ禍もあり、地域でのつながりが少なくなっていることは、皆様もお感じになっていることと思います。

しかしながら、地域で活動していない方の中には、きっかけがあれば、興味のあることや地域で貢献

できる活動をしてみたい、地域に関わってみたいとお考えの方がいらっしゃいます。

一方、地域で活動している団体からは、人材の不足、担い手の高齢化などの課題があり、もっと多くの人に関わってほしいという声が上がっています。

そこで、本日をステップ1として、意見交換やアイデア出しを行い、新しいグループで活動を始めることや、既存団体でのアイデアの実践、また、既存団体の活動への参加など、皆様が地域活動へ踏み出す初めの1歩としていただきたいと思います。

ステップ2として、令和6年度については、本日の車座集会で生まれる新たな企画の準備や、会の開催などに向けた具体的な取組の展開をしっかりとフォローアップし、ステップ3として、秋口から冬頃、実践につながった取組の横展開、好事例の区全体への波及などを、区民の皆様に御参加いただき開催する地域デザイン会議等を活用して、行っていきたいと考えております。

説明は以上です。

<事例発表>

司会：次に、会社を退職された後、地域での活動を始められました、参加者番号21番、齋藤英雄様に、地域活動の魅力などについて御発表いただきます。

齋藤様、前のほうへお願いいたします。

齋藤さん：皆さん、おはようございます。御紹介いただきました齋藤と申します。

早いもので、私69歳になりました。会社を辞めてから6年目に入っております。その経験を話したいと思います。

退職直後と今の状況を比較しますと、退職したばかりの頃は、昼間にあまりやることがない、話し相手もないということで、非常に気持ちが落ち込んでおりました。そのため、体調もあまりよくないと。それから、収入が減るものですから、最初のうちは怖くてお金が使えないという状況でした。

現在はどうかといいますと、これからお話ししますが、4つぐらいのルートで人脈ができて、非常に毎日が楽しくなり、それから、お金に関しては、収支のコントロールがうまくできるようになって、メリハリのついたおカネの使い方ができるようになったと。それから、毎日運動することで健康状態もよくなったということで、生きてきて今が1番幸せなんじゃないかなというふうに思えるようになりました。

どうやってその人脈を築いていったかということですが、4つありまして、1番目は近所の同好会に参加する。私、700世帯以上ある大規模なマンションに住んでいるんですけども、そこに15ぐらい同好会がありまして、英会話とか社交ダンス、歩く会とか、いろいろ顔を出しました。

2番目のルートが多摩市民館、大変お世話になっております。多摩市民館の募集しているボランティア活動に参加したことです。取っかかりは、健康寿命を延ばすイベントを企画する「チームとことん！」というグループにまず入りました。それから、放課後、小学生の宿題等を一緒に考える寺子屋の先生をやりました。3番目は、主として多摩区に住んでいる外国人の方々に日本語を教えるという、識字学級のボランティアをやっております。

3番目は趣味の追求ということで、2年ぐらい前からフルートを習い始めました。これは、同じマンションにフルートの先生がいるので始めたんですけども、その先生の御紹介で、今、近所の人フルートアンサンブルに参加して、同じ趣味の仲間もできました。

4番目でありますが、自分でサークルを立ち上げました。これは、ダンス仲間と小学生にダンスを教えるというサークルで、川崎市からの資金援助もいただきまして、中野島小学校で講習会を開催いたしました。

今までお話ししてきたことを、全部を継続してやっているわけではないんですけれども、今、私の生活は3つ柱がありまして、第1は社交ダンス。私、学生時代は競技ダンス部におりましたので、昔の経験を生かして、同じマンション内のダンスクラブでダンスの指導を行っています。それから、時々ダンスの競技会にも出ております。

2番目は、識字学級ですね。私は今、日本語をほとんど勉強したことがないという、超初心者のクラスを担当しておりまして、基本的には日本語で日本語を教えるという会なんですけれども、全く日本語が分からない人に日本語で教えるのは非常に難しい。大体今、英語が世界共通語になっているので、私の場合は英語をかなり使って教えております。サラリーマンのときに、イギリス、アメリカ、シンガポールという英語圏に住んでいた経験が非常に役に立っております。

3番目は、先ほどお話ししたフルーツです。

本日、皆さんに伝えたいことなんですけれども、まず、特に退職後は自ら行動を起こさないと何も起こらないということですね。

次に、私はサラリーマン時代は、地域の人脈はほとんどなかったんですけれども、何らかのきっかけで地域の人脈ができると、芋づる式にいろんな人脈が広がってくると、ネットワークが広がってくるといふこと。

3つ目は、健康を維持するためには、体を動かすことは大切ですね。ジムに行くという手もあるんですけれども、体を動かす好きな趣味があると、非常に楽しく長続きすると思います。

それから4つ目は、最近、退職後の資産をつくれ、投資をしろとかという話ばかり聞こえてきますけれども、私は、お金だけではなくて、現役のときから仕事以外の好きなことを追求するということが後になって役に立つのではないかと思っております。

以上でございます。

司会：齋藤様、ありがとうございました。

それでは、ここからの進行は、福田市長にお願いしたいと思えます。

市長：齋藤さん、ありがとうございました。

何かすごいですね。思わず、今が1番人生の中で楽しいというふうに言われた瞬間に、みんなからうわっという声が沸いていて、小坂橋さんの、すごいという言葉が思わず漏れていたのがここにも聞こえてきたんですけれど、皆さん、いかがですか。

齋藤さんからのお話を聞いて、いろいろな刺激を受けたと思いますけれど、「すごい」と思わず口走ってしまった小坂橋さん、いかがですか。一言コメントをいただいてもよろしいでしょうか。マイクを持ってまいります。

小坂橋さん：いや、そのとおりだと思ひまして、私もまだ退職して2年なんですけれども、及ばずながら、進めていこう、何とかしていこうと思っております。

市長：ありがとうございます。

皆さん、いかがでしょう。今、いろんな意味でインスパイアされた方、いっぱいいらっしゃると思うんですけれども。

Eグループの青木さんは、私、事前に資料を見ていましたら、今は東京でお仕事をされていて、退職後は何か地域のことで活動したいななんていうふうに思われていると書かれていたんですけれども、いかがですか、齋藤さんのお話を聞いて。

青木さん：本当に、まさに思っていたことといたしますか、私の心配事の随分大きなところのお話を今していただいたのかなとっていて、また後ほどお話を伺えたらなとっていたぐらいです。

市長：齋藤さん、もともと自ら社交的な方でいらっしゃるという自覚はおありですか。

齋藤さん：いや、全然ないですね。実は、人前でしゃべるのも、昔はすごく苦手でした。

市長：そうですね。その割にはものすごく多角的な。キーワードが、芋づる式にネットワークが広がると。1つの、1点を展開、突破するともう全面展開になっていくというような感じですかね。

齋藤さん：具体的には、私の場合は多摩市民館のおかげとと思っているんですね。というのは、最初は「チームとことん！」を広報誌で見て入ったんですけども、そうしましたら、市民館の方から、いや、齋藤さん、寺子屋もやったらどうですかとか、識字のほうもどうですかとかと言われて、それで広がっていったという感じです。

市長：結構、市民館がネットワークづくりのきっかけとしては大きかったと。

齋藤さん：大きかったですね。そのときの職員の方には、今でも大変感謝しています。

市長：そうですね。ありがとうございます。

もう1人コメントをお聞きしたいんですけど、町会の役員やっている手塚さん、すみません、突然振りますが、手塚さんのコメントの中にも何か町会としていろいろなものを促したいと、退職された方などを引き込みたいという思いがあると思うんですけど。

手塚さん：齋藤さんと年も同年代なんですけど、すばらし過ぎて嫉妬を覚えるというか、自分との違いが際立ち過ぎて。もともと非常にエネルギーを持っている方だと思うんですね。1つやっとうまくいって、次も、次もという方だと思うんです。最高の事例じゃないかと思うんですが。

そこで我が身を振り返ると、エネルギーがすごく小さい人間なので、1つやればもうおなかいっぱいみたいな、次もできないというようになるので、私は今、町会も、いろいろなことをやっていますけれど、1番嫌々やっ大変なのが町会活動で、これが今日、ここへ参加させてもらった動機づけなのですが、そういうものにちょっと絞って、今日何かサジェスションみたいなものをいただければ、町会へ帰って、こういうこともあるねという話ができればいいと思って参加させていただきました。

以上でございます。

市長：ありがとうございます。すばらしいコメントをいただきました。

やはり皆さん、本当に齋藤さんの事例がすばらし過ぎて、何かまぶしく感じておられる方が多いかと思えますけれども、今日はこれから、いわゆるプランニングゲームというものをやっていただくということになりますので、ぜひみなでいい知恵を出し合ってやっていただければと思います。

それでは、これからの時間、約35分間ということですので、10時55分までの時間帯でプランニングゲームを開始していただければと思います。

このゲームのテーブルごとの進行は、各ファシリテーターの皆さんに委ねたいと思います。

それでは、私も時々、周りであらうついておまして、話を聞かせていただくことがあると思いますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。それでは始めてください。

(ワークショップ (グループ別))

<ワークショップ・各グループからの発表>

市長：皆さん御着席をいただいて、これから発表していただきたいと思いますが、どこからでもいいんですよ。一応、Aからとかというふうになってはいますが、これ、手挙げていきますか。

どうでしょう。私からやってみようという人がいらっしやったら。はい、すばらしい。じゃあ、Gグループさんからお願いします。大体2分をお願いいたします。

佐藤さん：多摩区宿河原でコミュニティカフェをやっております、佐藤永子と申します。

うちは、Gグループ見守り隊というネームになっております。

地域拠点プロジェクトをつくりたいということで、今、空き家がたくさんあるので、まず拠点をつくるのに空き家を利用しようじゃないかというお話になってはいて、防犯とか防災とか、要するに地域を知って生活を守るということを具体的にやりたいとみんなで思っております。

だから、子どもとか大人とか、そういう壁を何もなくして、みんな同じように気がついて助け合っていこうというプロジェクトをつくりたいということです。

まず、次の1歩として、取りあえずはうちの店に集まっていたいただいて会議をやりましょう、という話になっております。

市長：ありがとうございます。

次、どこのグループいきましようか。はい。Fグループのほうが早かったですね。Fグループ、お願いします。

築地さん：私たちFグループは、チーム名が「キャッチボール広場」ということで、キャッチボール広場の築地と

角谷さん：角谷です。

築地さん：よろしくお願いいたします。

このチーム名にあるとおり、もうキャッチボール、もうそのままですね、私たちが考えたのは、一方だけじゃなくて、両方、双方向からのつながりということで、こういった形が出てきました。

角谷さん：どうキャッチボールを具体化するかという感じで議論しました。具体的には、フロントウンを使うかな。フロントウンは使う、ほかにも使いたいなど。それで早朝がいいと。早朝、早起きをして、何をやるにしても、とにかく挨拶が大事なので、挨拶はもう必須で、それで助走ですね、もういきなり今日から何かをすとかというのは難しいので、助走期間をどう取るかみたいな考え方でアイデアを出しました。

そして、国籍や年代も絞らない。不健全になるので、いろいろな人たちが集まる場で世代間交流ができる幾つかのメニューを、毎回メニュー、日替わり、週替わり、月替わりかは分かりませんが、やっていったらいいかなという話です。

例えば料理ですね、作って食べる。食はもう共通ですので、食べる。食べる系の日がある。それから、スポーツですね。万国共通ルールがあると。世代も年代もあまり関係ない。一緒にやれることがありますよね。それと子育てですね、子育て、これをいろいろな世代間、国籍感を超えて学び会えないかなという話が出ました。

それから、学生や社会人がお互いに学び合う。学生が仕事を知る、あるいは仕事していた人が地域を学び直すみたいなメニューもあったらいいなという議論がありました。

「キャッチボールを実現する広場をつくっていく」というのがFグループのアイデアですね。

築地さん：はい。ありがとうございました。

実現に向けては、もう具体的に私たちは集まる日を決めていまして、その1は、稲田堤で毎月1回やっています「まちライブラリー」という居場所のところで作戦会議を開く予定です。その次に、フロントタウンへ行って、実際にロケハンをしてまいりたいと思います。よろしくお願ひします。興味がある方は、ぜひご一緒してください。

市長：すごいな。ありがとうございます。

それでは、Bグループさん、行ってみましょうか。はい。

浦野さん：おはようございます。Ankerフロントタウン生田から来ました、支配人をしていす浦野珠里です。よろしくお願ひします。

今日は、多摩のベース基地「たまきち」から発表させていただきます。

今、Fグループからフロントタウン生田の御利用の御希望をいただきましたけれども、今日、うちを宣伝するためだけではなくて、地域密着を考えての案ですのでお聞ひください。

キャッチボール広場と出ましたけれども、FOOTBALL TOGETHERは、会話のキャッチボールということがすごく大事だということを私たちは意識しています。

私たちの発表にいきますと、アクションプラン、まず、わくわくどきどきを見つけよう、人生100年時代を目指す。これ、最近、どこでも聞くと思うんですけども、人生100年時代、もうそんなに長生きしたくないよとかという人もいるかもしれませんが、私は定年退職後は、先ほどの齋藤さんのお話のように、1番楽しみです。

そうした場合に、じゃあ、どうやって楽しむかという、わくわくどきどきは最高のキーワードになるかと思ひます。じゃあ、それを見つけようと言ったときに、この見つけることがすごく大変だと思ひていて、今、何かやりたいことがある人はそんなになかなかいないと思うんですね。

趣味がある人は、めっちゃめちゃハッピーだと思うんですけども、それを見つけていることがまず難しいかな。じゃあ、別にそれを見つけてることに直接手を出さなくても、何かきっかけづくりができたらいいな。

そこで、体は資本です。何をやるにも自分の体の中がどうなっているかと気づいたほうがいいかなと思ひます。

でも、病院に行くのは嫌だ。なので、うちにある健康機械とかを使って、Ankerフロントタウンに来ていただいて、今日はたまきち健康ラボと語らせていただひていますが、うちのイベントで健康測定をして、その背景にいろいろなコミュニティのPR、手を伸ばせる場所があったらいいかなと思ひています。

そんな活動をAnkerフロントタウン生田でできたらいいなと思ひます。よろしくお願ひします。

市長：ありがとうございます。

次、いかがでしょうか。Eグループ、お願いします。

萩原さん：どうも。Eグループのチーム名は「スナック洋子」で宣伝させていただきます。

私は、専修大学学生の萩原直樹と申します。お願いします。

まず、アクションプランとしては「スナックTAMAGAWA」という感じで、簡単に言うと誰でも集まれる、世代を一切問わずに誰でも集まれるような場所をつくりたいということを考えています。

ここでは、例えば、プログラミングを教えるイベントだったりとか、オリンピックを今年やると思うんですけど、好きな人たちが集まってオリンピックを見るみたいなイベントをやってみたりだとか、本当にいろいろな世代の人たちが集まってイベントをやるようなカフェというのをつくろうかなというのを考えています。

カフェというと、よくここに集まって何かまじょうみたいな、場所が決まってしまうと思うんですけど、多摩川でバーベキューをするイベントだったりだとか、もう本当に場所すら一切問わずに、みんなで集まる場所、そこがカフェだみたいな感じで、もう本当にいろいろな世代が集まれる場所というのをつくりたいというふうに考えています。

この実現に向けた次の1歩として、例えば、区役所の食堂に集まるだとか、これ、区役所の食堂に集まってお酒を飲んだら、ほかの友達とか知り合いとかに、俺、区役所の食堂で飲んだぞとか、そういうすごくインパクトある宣伝ができて、それ、面白そうじゃんみたいな感じで宣伝がすごくできて、こういうイベントでいろいろな多世代とつながって行って、もっと何か楽しいイベントになっていくのではないかと考えました。

市長：ありがとうございます。

次、いかがでしょうか。どこですか。手が挙がりました。Aグループ、お願いします。

用松さん：こんにちは。

Aグループは「チーム梅干」というチームで、アクションプランが「プラットフォーム」というものになっております。経緯でいいますと、このチームはやりたいことが本当にたくさん出てきて、川崎市といえば多摩川だよねというところで、もっと多摩川を有効活用できるのではないかみたいな話であったりとか、地元の方がいらっしゃって、その季節ごとの、もっと桜がきれいなところがあるんだよとか、意外と知らないよねみたいな話が出たりとか、あとは、藤子・F・不二雄ミュージアムだったりとか、マージャンをしたいときにすぐに集まれたりとか、何かいろんなやりたいことが出てきたときに、やっぱり場所が欲しいよねというところで、コミュニティカフェとか、場づくりというキーワードが、おのおのやりたいことがありながらも、一緒に出てきたという形でした。

そこに向けて、まず、僕たちは具体的にどこまでというところは詰められはできなかったんですけども、場所探しをやっていききたいよねというところで、例えば、ここもキッチンがあるので、今後使えますよというお話もファシリテーターの方からいただいたりもしたのですが、そういう場所を、例えばオンラインで簡単に予約できると使いやすいよねとか、駅近だったら使いやすいよねみたいな話があったりしたので、その場所をまず探すというところから始められたらと思っております。

市長：ありがとうございました。

いかがでしょうか。はい、じゃあ、Dグループですね。はい、お願いします。

猪腰さん：こんにちは。Dグループの猪腰です。

僕たちは、チーム名「カラズ」といって、いろいろ、多様性を重視したチームです。

アクションプランとしては、「思いを形にする居場所、初めての人を応援します」という形で、私たち、このチーム名、齋藤先生をはじめ、いろんな教室をできる方が多くて、ヨガ教室だったり、ラグビー教室、ドローン教室、そしてダンス教室とか。教室ができる人が多い中で、そういった教室を開講したい。じゃあ、やるべきことと、やったほうがいいことはまた別かなということで、Who、What、How、誰に何をどのように提供するかとこのところで考えさせていただきました。

まず、誰に。1歩を踏み出せない全ての方々がターゲットでいいのかなと思っています。

What、何を。学ぶ場所を提供して、それがつながりにつながればいいのか。それを現実にするためにどのようにしますかといったら、リアルな場所、今、携帯を使ったりオンラインを使えば集まれるんですけど、そうじゃなくて、リアルな場所を実現するほうがみんな来やすいよねということで、そういった人たちがどのように来るかなと考えたときに、毎月第2土曜日の11時から12時の間、ここに来れば、そういった話ができるよと、具体的に参加者目線で、毎月第2土曜日は行こうみたいな感じで、そういった思いを形にする居場所を私たちがつくることができたかなと思っています。

市長：ありがとうございました。

それではCグループさん、手が挙がっていましたね。はい、お願いします。

出口さん：こんにちは。Ankerフロンタウン生田の出口です。

Cグループでは、アクションプラン、キーワードとして、「ウエルビーイング」という言葉を挙げさせていただきました。これは、心身の満足度というところで、何か一過性のもではなくて、持続的にその幸せという感情を持ち続けられるようにしていけたらいいなという話になりました。その中心として、スポーツ、健康といったところが挙がりました。

スポーツは、誰でも始められる。経験者じゃなくても始めやすいスポーツとして、ニュースポーツ。ペタンクだったり、グラウンドゴルフだったり、そういったところを始めて。

健康といったところは、先ほど浦野からもお話しましたが、フロンタウン生田で、体脂肪だったりとか、筋力量を測るような測定器を持っているので、そこで測定して、そこで得た知識から、食事に関心をつけてみたりとかといったふうに、継続して何かいろいろなものに興味を持って、幸せを継続できるといったところが、今回、Cグループではやってみたいなというふうになりました。

市長：ありがとうございました。

Hグループですね、お願いします。

寺田さん：こんにちは。小学校教諭をしています寺田といいます。

前に、福田市長にも保護者と教師として関わらせていただいたことがありまして、ありがとうございました。

ここのグループ、イベントを紹介する前に、チームがすごく熱いなと思っていて、小田急電鉄さんと小学校という、人がいっぱい関わる場所で勤めている方。大学生の、今を学び、それで未来をつくる担い手。知識と経験の豊富な先輩方がいるところで、すごく熱いイベント、アイデアが出てきました。逆にまとまらないかななんて思っていたんですけど、やっぱり目的のところは、人脈づくりだとか、教育だとか、そういったところを目指していきたいなというふうになりました。

そのためにも、やっぱり子どもたちの思いが集まることで、次世代に、私たちのここの熱いメンバー

の思いが子どもたちにも伝わったらなど。そして、その子どもたちがコミュニティをつくるような大人になってほしいなというところが共通していました。

なので、ぜひここで、カフェとか音楽のイベントとか、体を動かすイベント、プログラミング教室というのを、大人が教えるのではなくて、子どもと一緒に場所をつくったりとか、そういったことができる場所を、また、大人も企画、計画していければなという話になりました。

きらきらした大人は子どもたちもきらきらした目を見て、そのきらきらした目を持っている子どもたちに、大人もすごく頑張らなきゃというふうに思っていくと思うので、教育現場からもいろいろ協力したいと思いました。

市長：ありがとうございました。

全て終わりましたかね。ありがとうございました。すばらしい発表でした。

ものすごく時間制限がある中で、ここまで皆さん、よくまとめていただいたと思います。ありがとうございました。

いくつかキーワードみたいなもの、共通しているキーワードみたいなものがあったと思います。

1つは「誰もが」という、国籍も年齢も障がいの有無とか関係なく、もう誰でも受け入れられるような、そういうようなものがあるというところは、複数チームから出たような気がします。

それから、引きつけられるものといったら、食べ物というのも大きいよねということも多かったと思いますね。

それからスポーツ、健康づくりですね。健康づくりのための、まず測定から始めましょうという。いろいろやりたいんだけど、最初のきっかけをどういうふうにつくるかは結構難しいところだと思うのですが、まず自分を知ってみましょうという、測ってみようというところから始めるというの、なかなかいいアイデアだなと思いました。

それから、AとEですかね、多摩川を使ったらいいのではないかというのが、2つグループから出ましたけれど、僕、実は意外だったのは、8グループの中で多摩川の言葉が出てきたのがこの2グループだけだったんですね。多摩区の最高の資産である多摩川が意外と出てこないものだなというのは、逆の驚きではありました。

そうですね、それから、まず非常にネーミングとしてよかったのは、「スナック洋子」チームね。「スナック TAMAGAWA」をやるという形で、区役所も飲める場所だったらいいのになとか、そんな話はありませんでしたが、実はそういうことを、今、市民館だとか、公共の施設でも、今まではもう、物を販売しちゃいけない、飲み物もアルコールも飲んじゃいけない、というすごく規制が多かったものを、もう少しどういうルールづくりをしたら使えるようになるかということ、検討しているところです。

もう少し自由になったら、みんなが泥酔するまで飲むわけじゃないから、少しコミュニティの活性化するような、少いうまい使い方というのは、あまり規制し過ぎてもよくないのではないかと。ただ、それが守られるようなルールをどうやってつくるか、住民ルールをつくっていかなくてはならないというふうなことを検討しています。

それから、1つ紹介したいのは、場所がどこかという問題が結構あると思うんですけど、今年度も教室シェアリングというものを少しやりました。教室シェアリングって聞いたことはありますか。ある方はいらっしゃいますか。もうほぼ皆無。残念です。区長、まずいな。

いや、実は、場所がないという声というのはすごく聞くんです。場所がないから、市長、この辺に何かつくってくれとかというふうな話があるのですが、あるものをどうやってうまく使っていくかということ、考えなくちゃいけないと。

そこで、学校というのは、すごく身近な地域の資産としては大事な施設なので、子どもたちの教育目

的のために最も使われるのは当たり前のことなのですけれども、それ以外でも、時間帯によってはシェアリングできるよねということで、校庭開放、みんなの校庭プロジェクトと教室シェアリングと、2つを今進めています。

来年度、令和6年度は全校で校庭開放というのをやっていきます。昔、僕なんかもそうですけど、放課後、小学校に行って1人で遊ぶ、友達と遊ぶというのができていたのが、今そういうことができなくなったので、ボール遊びができないという子どもたちはすごく多いんですよね。このためにどうしたらいいのかというのを考えて、全校で、今まで団体しか使えなかったのを、個人で公園のように校庭を使うというようなプロジェクトを今、進めていて、各区のモデル校をつくってやっていきますけれども、これを来年度は全校でやっていくと。

続いて、特に特別教室ですね。音楽室だとか、調理室だとか、視聴覚室だとか、こういったところは、最近、スマートロックがあるじゃないですか。携帯とかで予約もできるというふうな、鍵もできるという形で、それを導入しようということで。特別教室も使えるようにするというのをすれば、さっきの予約の話、どこかのチームで出ていましたけれど、実は個人でうまく利用できるようになってくるというのをやっていくので、そういう場所をぜひ使ってください。

今日、いろいろなアイデアが出ていると思うので、身近な場所といたら学校を使ってください。齋藤さんのように、フルーツやられる方は、家でやると困ると言われる家、結構あると思います。ぜひ小学校の音楽室を使ってもらいたいなというふうに思います。こういうふうに、あるものをどうやってうまく使うかという発想で取り組んでいるところですので、ぜひ使ってもらいたいなと思います。

さて、皆さんのほうで、このグループの話がすごく気になったなというものはありますか。

ここの取組がすごく面白いなというふうに思ったものは、何かありますでしょうか、感想を聞いてみましょうか。積極的にどうですか。

鬼頭さん、いいですか。それぞれの取組を聞いて、あるいは自分のチームの補足でもいいですけど、こういうところの発見があったよというものがあれば教えていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

鬼頭さん：鬼頭と申します。よろしく申し上げます。

皆さんのチームの発表を聞かせていただいて、特にGチームのが、既にプランは立てられて集まるみたいな話が進んでいるということで、驚きというか、こういう場でつながって、すぐに展開するというのは、すごくいいなと思って聞いていました。

我々のチームのほうでも、ニュースポーツだったりとか、いろいろなアイデアが出た中で、すぐに動けるものは動いていくというのが、このコミュニケーションを高めていくのに重要なのだろうというふうに感じました。感想ですみませんが。

市長：いやいや、ありがとうございます。本当にすごかったですね。Gグループはもう既に場所が決まっていたんですけど。作戦会議は佐藤さんのところでやるというふうな話になっていましたけれど、あれ、ほかのとももありましたよね、どこか。Fグループですよね。Fグループも既にもう場所が、どこでやるんですけど。

築地さん：作戦会議は稲田堤で、私が月1でまちの居場所づくりをしている、地域の美容院の方が貸してくださっている場所で作戦会議をしたいと思っています。

その次に、ロケハンでフロントタウンに行こうと思っています。

市長：これ、すごいですよね。まだ始まってから1時間半たっていないんですよ。今日ほとんど初めてですよ、皆さんお会いしたのは。もう次の行動が決まっているのはすごくうれしいです。

というのは、先ほど、初めに説明させていただいたように、この車座集会をきっかけにして、来年度は具体的に、今日出たものを実際に動かしてみよう、あるいは、既存の活動にもっと参加してみようというものがあって、来年度の秋からはさらに展開していこうということなので、もう既にその段階まで入ったというのは、すごい成果だというふうに思います。

さて、皆さんの中で、今、地域活動をそれほどしているわけではないという方はどの位いらっしゃるでしょうか。手を挙げていただいてもいいですか。

その方たちに、今、鬼頭さんに聞いたようなお話を、少しずつコメントをいただければと思うんですけども。今回のプログラムに参加して、あるいはこの皆さんの発表を聞いて、どういう気持ちの変化だとかが起きているのか、あるいは、感想でもいいのですけれども、一言ずついかがでしょうか。

じゃあ、Aグループで、まだ地域活動をやっていないよという方、どなたでしょうか。

村上さん：村上と申します。

今回、参加させていただいて、皆さん、やっぱりつながりを求めているというか、そういうところの場が必要なんだなということを改めて、私だけじゃないんだなということを感じたので、1歩が踏み出せるかなと勇気づけられました。ありがとうございます。

市長：ありがとうございます。

自分だけではないんだなと、多分みんな思っていると思いますね。ありがとうございます。いかがでしょうか。

池田さん：池田と申します。

村上さんがおっしゃったとおり、やっぱり働いていたりすると、その環境によって、地域とつながりの持ち方というのもよく分からないところもありまして、今まで来たんですけども、きっかけというのは割と、今日、私、これに参加したのも、知り合いである橋本さんから声をかけていただいてなんですけれども、どうやってきっかけをつかんでいいかというのは、やっぱり分からないところで、そういう知り合いからの声かけがあると参加しやすいのかなと思うので、そういう輪をどんどん広げていったら、地域のほうに関心を持つ人も増えていくのかなというのを、今日改めて感じました。

市長：ありがとうございます。

Aグループに、ほかにいらっしゃいませんか。用松さんは、今までもあまり参加していない感じですか。

用松さん：そうですね、ちょっとこども食堂とかは、最近行ったことはあるんですけど、でも、全然ないですね。

市長：何か意識は変わりましたか、今日。

用松さん：そうですね。もちろん変わりましたし、教室の話とかも聞いて、まさにもう既に市が取り組まれているということを知って、もう本当に欲しいなと思ったというか、ぜひ活用したいなと、すごくうれしい気持ちになりました。

市長：ありがとうございます。

Bグループの方でどうでしょう。今、活動はそれほどしていないなという方は、いらっしゃいますか。

岡部さん：岡部と申します。

私もまだ仕事をしている現役世代ということで、あまり地域活動に参加ということができないんですけども、今日、参加させていただいて、実際にはいろいろなことが地域の中で行われているんだなということを、正直、初めて感じた部分はございます。

現状はやはり、そういった、どこで何がいつ行われているのかということ、こちらから積極的に情報を取りに行けば、当然知れるんでしょうけれども、なかなか現役世代の方、私だけかもしれないですけど、あまりそこまで積極的に情報を取りに行くということがないのかなとは思いますが、私はもともと田舎の出身ですので、このあたりもそうだったのかもしれないのですが、町内会で回覧板みたいなものが定期的に回ってきて、そこに町内の情報なんかがあって、子どもながらに、ああ、お祭りがあるんだとか、そういったことを知ることもありましたけれども、今、そういったものもないという状況の中で、町内で何が行われているのかなということを知ること自分で取りにいかないです。そういった中で地域活動、こういったものがあるのか知る機会がなく、なかなか時間の都合とかもある中で、参加できていないという現状でございます。

ただ、今日、いろいろなことが実際には行われているということを知ることができましたので、本当にいい機会だったと思います。

市長：今日参加していただいたのは、何きっかけですか。

岡部さん：私が所属している会社が薬局でございまして、多摩区でクスリのナカヤマという薬局を運営させていただいてまして、そこで区役所とはつながりがあったものですから。

薬局としては、地域の婦人会さんだったりとか老人会さんなんかで、お薬の勉強会をさせていただいたりとか、そういう地域活動をお手伝いさせていただいておりまして、ただ、個人としては全くできていないというところでございます。

市長：そうですね。いや、薬局は地域資源としてもものすごく大きいですよ。法人としても個人としても、参加していただいて新たなきっかけができたということで、ありがとうございます。

いかがでしょう、金丸さん。

金丸さん：金丸です。

自分は大学生なんですけれど、今回、こういうイベントに初めて参加して、ここに参加してくるみんなが積極的で情熱もエネルギーとかもあって、いろいろ参加したいイベントとかも出てきたので、いい機会だったなと思いますね。

市長：何か参加したいものはありましたか。

金丸さん：何か飲みに行くみたいな、それはちょっと面白そうかなと思いましたね。

市長：確かに学生時代はコロナの時期が長くて、なかなかつながりだとか、飲み会もないしというつらい感

じだったですものね。

金丸さん：そうなりますね。

市長：Eグループに加わっていただいても結構ですし、飲み会はぜひやっていただきたいと思います。ありがとうございます。

Cグループ、いかがでしょうか。先ほどは鬼頭さんからお話を聞きましたね。中畑さん、お願いします。

中畑さん：中畑と申します。今回、本当に奇跡的なきっかけというか、会社の全然違うルートからのきっかけで、この会合に参加させていただいています。

私は今、多摩区じゃなくて、麻生区に住んでいるので、多摩区としての活動というところには、若干距離がある感じではありますが、区の中だけでこういう話がこれだけ出てきていて、いろんなアイデアがあるのにすごく驚きました。

麻生区の話だと、今、高齢日本一的な感じもあって、もっと活性化していくにはどうしたらいいのかというのが非常に気になっていたところではあったので、若い人もいれば高齢の方もいる、全体がどうしたらつながっていくのか。そこが気になって、こういう会があるというので参加させていただいた中で、まさにそういうことを考えていらっしゃる方がいるというところに、非常に感銘を受けました。川崎市としてもいろいろやっていくという話もあったので、そういうところでうまくチャンスがあれば私もぜひ加われればというふうに感じました。ありがとうございます。

市長：ありがとうございます。

いや、そうなんです。去年出た情報ですけれども、全国の市区町村の中で麻生区が男女とも平均寿命が全国で1番長いということで、男女ともというのは多分、日本で初めてのケースなんですけれども、実は来月、麻生区で車座集会をやるんですけれども、麻生区もこのつながり関係でやるんですね。対象地域をものすごく限定しているんですけれども、麻生区のグリーントウンという場所、ここは高齢化率がものすごく進んでいまして、もう40年前ぐらいに開発されたマンション群なんですけれども、一気に同じ世代の人たちが買っているんで、皆さん大体80歳代に向かっているということなので、高齢化率が圧倒的に高いと。

ここでもう1回どうやって活性化していくかという取組を、具体的にこの地区でどうやっていくかというふうな話をするんですけれども、やっぱりつながり、何かきっかけがあれば参加したいんだけど、二の足を踏んでおられる方というのが多いので、そこをどうやって解きほぐしていくのかというのが、実はテーマなんですけれども、麻生区のほうでもぜひよろしくお願いします。ありがとうございます。

ほか、Cグループの方でいらっしゃいますか。

丸山さんはもういろいろ活動されているんですよね。何かコメントがあったらお願いできますか。

丸山さん：川崎市のいろいろな取組に関わらせていただいているんですけれども、ずっと考えているのは、やっぱりここでつながるとい話が出ますけれども、私の好きな言葉で、巡る、つながる、支えると言って、最近はそのな気負わなくても、支えなくても、ぶら下がるでもいいと思うんですけれども、やはり好奇心を持っているんなところに顔を出していくということが、まずは最初かなというふうに思います。

私も70歳になるんですけれども、だんだん体力が衰えてきて、去年、山を登っていて膝を痛めたり

もしたものですから、フロントタウンさんにもお世話になっているんですけども、自分の体をちゃんと見極めて、少しメンテナンスしなきゃいけないなど。だんだん年とともに、行動も変えていかなきゃいけない、そういう意味でのいろんな活動も、遠くにスポーツをしに行っているのを少し近場で、自分の住んでいる近辺で何かできることはないかというのを今、試行錯誤しているところです。

市長：ありがとうございます。

Dグループ、いかがでしょうか。

まだ地域であまり活動していないという方、いらっしゃいますか。

安藤さん：専修大学から来ました安藤と申します。

つながりをつくるには、居場所づくりが1番大事だと今回感じまして、私は、去年の11月に三田小学校でプログラミング教室を開催させていただいたんですけども、今回、市長からお話があったとおり、学校の放課後、視聴覚室とかを開放してくれるということで、そういう場所があると、私たちもプログラミング教室の開催がしやすくなって、つながりをつくりやすくなるのかなと感じました。

市長：ありがとうございます。

プログラミング教育は、誰を対象にしてやってくださったのですか。

安藤さん：小学6年生を対象にやりました。

市長：小学校6年生を。ありがとうございます。

いいですよ、小学生もお兄さんに教えてもらうような、少し斜めの関係ぐらいで教えてもらうというのは、ずっと入ってくるような感じがしますし。

Dグループは、学びだとかということをすごく議論されてきましたよね。教育的なものだとかいうのを議論されていたのが非常に印象的でした。ありがとうございます。

Dグループ、ほかにいらっしゃいますか。

広瀬さん：広瀬光野と申します。

私は、会社の案内というか、社会貢献室みたいなどころから来たメールに、多摩区というワードがあって来ました。

ふだんは全く活動していません。何かキーになるものがあれば、1日限りのボランティアとかに参加していたんですけど、多摩区は、川崎もそうなんですけど、何をしているのかが全く分からなくて今日は参加してみたという形です。

やっぱり、生まれも育ちも川崎市ではないので、気軽に情報が取れないというのが問題なのかなと思っています。

市長：ありがとうございます。

今お話しいただいたように、今日から市民になる方もいらっしゃるので、そういう意味では、昔から住んでいる方も、今から市民になる方も、気軽に情報が取れる、あるいはつながるという機会を、多チャンネルで持っているということがすごく大事だと思いますね。リアルもそうだし、オンラインでもという、SNSみたいなものもそうでしょうけれども。ありがとうございました。

他はいらっしゃいませんか。

じゃあ、猪腰さんですか。ありがとうございます。

猪腰さん：猪腰です。

僕自身も去年の7月に多摩区に引っ越してきて、そういった地域の何かに触れたいと思うことがあって、今回、青柳さんから御紹介いただいて参加させてもらって、やっぱりA、B、C、Dを含めて、どのグループも、居場所だったり、コミュニティの場所というのが必要なんだとすごく感じたので、僕ら、まだ20歳代が少ないんですけど、そういう若い力も絶対には必要にはなってくると思うので、皆さんのつくり上げたまちを引き継げるような20歳代でありたいと思っております。

市長：カッコいいですね。ありがとうございます。

多世代で、いろいろな世代が関わっているというのがすごくいいですね。

ソーシャルデザインセンターも、非常に多世代になって、多摩区のソーシャルデザインセンターは大分学生さんの力が強い感じですけども、今の取組を堀川さん、紹介してもらってもいいですか。どんなことをしているのかというのを、ちょっとSDCの紹介も兼ねて言ってくれるとうれしいですね。

堀川さん：ありがとうございます。初めまして、多摩区ソーシャルデザインセンターの堀川と申します。

私は大学4年生で、私のほかにも大学生でコアで活動しているメンバーが40人位いるんですけど、最近、角谷さんだったり橋本さんだったりを中心に大人の方も入っていただいて、高校生もいて、中学生もボランティアとかも手伝ってくれているので本当に多世代という形でやらせていただいています。

活動としては、地域で活動している人と人だったりとか、あとその空いている場所と何か活動したい人をつなぐというところの中間支援をやらせていただいている団体です。

具体的などころで言うと、今日、子ども向けの運動会を、多摩川の河川敷を使わせていただいてやらせていただいています。2部制で80人ずつ応募があるので、大体160人位。あとは、日頃の活動ですと、こちらの生田出張所を使わせていただいて、子ども食堂も今2回ほど開催をさせていただいています。

あと宣伝になるんですけど、この後の時間で、上の階で高校生と大学生の若者でぜひ合唱をやりたいというメンバーが集まって「かわさきの響」という合唱イベントのほうも場所をお借りしてやらせていただいています。

子ども、子育て支援もそうなんですけれど、地域の方がより活動しやすくなるような、お手伝いをできるというところをやらせていただいています。

なので、今回参加をさせていただいて、Aグループでプラットフォームというふうに挙げさせていただいたんですけど、そういった場所を活用するというモデルと言ったら大分偉くなってしまいうんですけど、何かお手伝いができたりとか、先に行ってよというところをSDCができたらいいかなというふうに思っています。

ぜひ活用してください。

市長：ありがとうございます。SDCでどうしてこれだけ学生が集まるのかというのは、みんな不思議に思っていると思うんですよ。どういうノウハウがあるのかというのを、一端をお聞かせいただけるとありがたいです。

多摩区に住んでいる学生なのか、あるいはそれ以外の市外の方たちも含まれているのかということも含めて教えてもらっていいですか。

堀川さん：多摩区のソーシャルデザインセンターには、生粋の多摩区の子は1人、2人ぐらいしか実はいなくて、私も中原区に住んでいて、あと麻生区に住んでいる子とかもいるんですけど、やっぱりポイントとしては川崎市内というところと、あと先ほどの齋藤さんのお話でもあったんですけど、芋づる式というのがポイントというふうに思っていて、私は多摩高校出身で、高校のつながりで呼んでいただいて来ました。

逆に私が今弟を誘ってきたとか、あと友達を誘ってきたというふうに、口コミもそうですし、もともと自分がつながっている人がどんどん呼んでいく。あとは地元なのでやっぱり活動がしやすい。場所も知っているし、物も知っているというのと、あと魅力も知っているというところ。そういった芋づる式というのと、地元を知っているというところで、すごく若者が集まるのかなと思っています。

市長：素晴らしい。ありがとうございます。

いや、芋づる式がこっちでも出てきましたけれど、本当に市内の学生さんが芋づる式にと。イベントをやるときには、もう100人単位で来ますよね。150人ぐらい学生さんがいるんじゃないかというぐらい、もうどこからこの学生さんは出てきているんだろうというぐらい、やっぱりコンテンツが良くと、それだけ人をどんどん呼び込むという力があるということを感じています。

本当に、ソーシャルデザインセンターが多世代になってきていることは、すごくまたいいなと思っています。サポートいただいているシニアの方々も本当にありがたいですね。全員聞くと多分時間がなくなっちゃうので、ポイントで、今日気づいたよと、今まで地域活動をあまりしていなかったけれど、こういうところに気づいたかなというものがあつたら、あと2人ぐらいお聞かせいただけると。EチームからHチームの方でどなたかいらっしゃいませんか。どうぞ。

大野さん：大野と申します。

すごくいろいろな活動があるんだなというのと、結構面白そうなアイデアが出ていていいなと思ったんですけど、1個、うちのチームで私が出させていただいたキーワードで、おしゃれというキーワードを実は挙げさせていただいて、結構町内会とかはおしゃれじゃないよねみたいな話も中で出ていたりして、昔ながらの活動は結構ずっと同じことをやっていて、そうすると、若い人から見ると、何だこれはみたいになっちゃうのはあるんだろうなと。新しい人が入ってみたくなるようなおしゃれさはすごく大事だというふうに思っていて、川崎市も今すごくブランディングに力を入れていると思うんですけど、そういう若い人とか、いろいろな人が魅力を感じるようなおしゃれさをうまく活動の中でやっていると、ますます入りたくなるのではないかななんて改めて思いました。

市長：ありがとうございます。

自治会、町内会の皆さんは本当によく頑張ってくださいありがとうございますけど、やっぱり自治会、町内会を運営していく上でも人材難というのは非常に困っておられて、若い人たちが入ってきてくれないという悩みもあるんですよ。

ですから、むしろ積極的に中に入ってもらいたいなという気持ちはあると思うんですけども、手塚さん、町会もやっていただいているということで、今のコメントで何かありますか。

手塚さん：おしゃれと今言われて、すごくいいキーワードだなと思いました。

新しく入ってもらおうと思っている人たち、誰かの息子さんとか、そういうつながりもあるんですけど、最近入ってもらった人は、学校の先生のOBで、もう定年退職した人で、ある程度意識が高い先生

で町会の会計をやらしてもらおうという、齋藤さんのお話じゃないですけど、定年退職して何かやろうかなという人、たまたまそういう人がいるという情報があったので、アプローチして、快く引き受けていただいて今活躍をしていただいていると。

先生ですので、いろいろな事務能力があるのですごく活躍していただいていますけれど、今回聞いて防災という言葉があまり出なかったのも、私はそういう思いで来ているので、さっきも言いましたけれど、今の能登地震がここで起きたら、それから数年前の台風19号のときに菅野戸呂というところに友達がいて、土手に上がると、もう多摩川の水が手が届くぐらいのところまで上がってきたと。

もうあと1時間同じ雨が降ったら決壊したということが実際にあって、もう市長も十分御承知だと思いますけれど、雨降で土砂が流れてきて堆積して、水深が浅くなっちゃって、一生懸命またもう何年も前から浚渫（しゅんせつ）はやっていて、あ、できたねといったところでまた19号が来ちゃって、今もやっていますけれど、やっぱり自然の力には人間は敵わないですから、防災とキーワードで言ったんですけれど、能登半島を見ていると、いろいろなもの、文化的なものもいろいろありますけれど…。

まとめるというのは非常に難しいんですが、とにかく救助、人命を守るということにはいろいろな方の、あそこにはおじいさんがいるね、障がい児がいるねという情報を集めるためにいろいろなイベントをやるということで、我々は目的がまとまりました。

市長：ありがとうございます。

実は本当にそうなんです。いつものときのつながりというのが、いざというときの本当に大事なところで、いざとなったときには、これはもう全然つながりがないところは難しいんですよ。

これ、言い方をすごく気をつけなくてはならないところなんですけれど、台風19号のときも自治会・町内会がしっかりとしているところとしっかりとしていないところの差というのは歴然でした。復旧スピードがもう全然違うということなので、例えばゴミ出し、災害ゴミを出すにしても、自治会、町内会のしっかり組織立っているところというのは、すみません、奥から荷物を出しますというふうなことをやることができました。

それがちゃんと組織立たないと、みんなが一斉にぱっと出そうとすると、全部通りを塞いでしまって、もう全然ゴミが出せないということになってしまうと。

ですから、本当にいつもの関係をつくっているというのは、都市部でも本当にすごく大事なことで、能登の避難所運営なんか職員が行っていますけれど、職員が到着する前にもう既に地域で回っている、あそこは地縁がすごくしっかりしている。今手塚さんがおっしゃったように、私たちも常日頃からのお付き合い、つながりづくりというのは本当に命を守ることがあるということなので、ぜひそんなところも、少し意識しながらやっていくといいかなと思います。

話が長くなっちゃってあれですけども、実はみんなで頭を柔らかくしましょうと、僕たち役所もそうなんですけれども、先ほど学校の話をしました。学校も、これは子どもたちの施設だから使っちゃいけないものだと思っているわけですね。なんですけど、いや、使いましょうということです。市民館なんかももっとうまく柔軟にやっていけばいいのではないかなと。

あるいは、公園なんかもそうなんです。先日幸区で車座集会をやったときの話ですが、ある公園は自治会、町内会の公園管理がもう難しいと言って、数年前にもう公園は面倒を見切れませんとなって、ちょっと荒れていたんです。

でも、そういう窮状を話して、ここでこの公園について車座集会をやりますと言ったら、実はその地域の若い人たちが立ち上がって、新しく会をつくってくれて、車座集会が始まる前に、もう僕たちがこの公園をうまく活用するという形で一気に動き始めました。

公園も、ここに花壇を作りたいんですけど、でも多分駄目だろうなと。ここで焼き芋をやりたいんだ

けど、多分駄目だろうなど。ここでお茶会をやりたいんだけど、多分絶対に駄目だろうなどみんな思っていると思うんです。全部できます。

というふうな形で、しっかりとルールをつくってやっていただければ、それはできる話なんですね。

日本のルールというのは、もうがんじがらめに決まっちゃっていて、役所があたかも何かできないふうにさせてしまったんですけれど、それをもっとうまく使おうと。そのためには市民の皆さんがこういうルールで、自分たちのルールをこういうふうに決めていこうということであれば、それはいくらでも使えるようになっていくということなので。

Eグループ、僕が聞いていてすごくすてきなと思った、移動式のカフェをやりたいという話がありました。こちらのGグループでは、空き家を使って拠点を作るという話がありましたね。集まったところ、そこがカフェだという発表をされましたよね。あれ、すごくいいキーワードだと思いました。場もそうですけど、集まる場所、そこがカフェなんだと。

何かすごく可能性を感じます、みんなが頭を柔らかくして、僕たち役所も頭を柔らかくすると必ず良いマッチングができると。その地域に応じたいまちができるんじゃないかなと。そして、いい人を引っ張ってき合えるんじゃないかなということ、今日はものすごく可能性を感じました。

今日お集まりいただいている方々は多摩区で活動しているごく一部の方たちです。他にも活動している人たちがたくさんいるので、活動をマッチングする、あるいは情報、どこに行ったらそんなことが分かるんだろうみたいなことというのでも必要でしょうし、やっぱり芋づるをどうやってやっていくか、あるいはきっかけの話をされましたけど、きっかけのアイデアももっとあるんじゃないかというふうに思いますので、ぜひ次回に、次回というのはここが第1回目のきっかけですから、次、4月から始まる新年度、そして秋にはというふうにどんどん多摩区全域で展開していきたいと思っております。今日御参加いただいて、すばらしい御意見をいただいたことに改めて感謝を申し上げたいと思います。

この時点で、区長からのコメントもいただいているのですが、突然ですけれど、いよいよよまよめの時間に入っていましたので。

区長：皆さん、今日は朝早くから熱心に御議論いただきましてありがとうございます。

これまでも、つながりを見つけるきっかけとなるようなイベントというのは行ってきたんですけれども、今日はそのきっかけが何なのか、私たちもよく把握できていなかった、どんなきっかけがあるのか、また皆さんがどんなことをやりたいのかというようなことを、こうやって集まっていただいて、この短時間ですけれども、できれば新たなつながりが生まれるところまで持っていこうという、ちょっとチャレンジな取組だったと思っています。

今、市長からもお話がありましたけれど、もしかしたら次の展開が見えている方、もしかしたらイメージが今日は違ったかなという方もいらっしゃるかもしれませんが、今日がキックオフでございますので、また来年度、今日の御議論を踏まえまして深掘りをしていったり、また実践につながった取組については、地域デザイン会議などを使って、横の展開を図ってまいりたいと思っております。

いずれにいたしましても、皆さんの御意見をこれから頂戴いたしまして、地域の活性化を図っていつて、誰かとまた何かとつながっているという、安心感を持って暮らせるまちづくりというものを進めていきたいと思っておりますので、引き続き御協力のほどよろしくお願ひしたいと思います。

本日は誠にありがとうございました。

市長：ありがとうございました。

最初に発表いただいた齋藤さんのように、退職してから地域にデビューをしていく、あるいはつながりを持っていくという方も、あるいは20歳代からもう地域との交流が盛んになっていくという方も、

どんどん参加していただきたいと思っています。みんなの知恵を集めれば、この僅か2時間、1時間半ぐらいのところでもすてきなアイデアが出てきましたので、この輪をもっと広げていって、ここ、多摩区に住んでいて本当によかった、ぜひ住み続けたいと、安心して住み続けられるなど思えるような、そんな地域づくりに活かしてまいりたいと思っています。

今日は貴重な日曜日の午前中、皆さん御参加いただいて本当にありがとうございました。市政、そして多摩区政にもしっかりと生かしてまいりたいと思います。

どうもありがとうございました。

司会：ありがとうございました。以上をもちまして、第65回車座集会を終了とさせていただきます。